

藤田浩子の 少し昔のこと 〈71〉

コッペパン

私が初めて食べたパンはコッペパンです。小学6年のとき、町内運動会の地区対抗リレーでその地区の、小学校女子代表に選ばれました。敗戦から4年経っていましたから、世の中も少し落ち着いて町内運動会も復活したのでしょう。小学校代表、中学校代表、そして20代、30代、40代、それぞれの年代の代表の大人と一緒に走るのです。運動会の1週間ぐらい前から、大人の仕事が終わった夜、バトンの渡し方などの練習が1時間ぐらいありました。練習が終わると、世話役の人が売始めたばかりのコッペパンを買ってきてくれました。私が生まれて初めて食べたパンです。真っ白ではなく、ちょっと黒ずんだような茶色っぽくて、ちょっとぱさぱさした、バターもジャムも付いていない、でも噛んでいるとほん



のり甘くなる固めのパンでした。

でも糧飯（かてめし・大根葉・芋・麦などを混ぜたご飯）ばかり食べていた私にすれば、これが西洋の王子様やお姫様が食べているパンというものなのか、と納得できるようなおいしいパンでした。

子どもたちが小学生の頃も給食にコッペパンが出て、小食だった長女はよく残してきましたから、私のおなかに片付けましたが、私が初めて食べたコッペパンと似ているような、ちょっと違うようなパンでした。

亀有にコッペパンの専門店があると聞いて、行ってみました。何もはさんでないプレーンコッペパンというのを買ってきました。真っ白でふわふわで、好きなものを挟めるように横に切れ目がはいつていました。コッペというのはフランス語のCOUPE（クーペ・切ったの意）からきているそうですから、切れ目の入ったパンは確かにコッペパンなのですが、私の初めて食べたコッペパンとは似ても似つかぬ高級品でした。

リレー連載 <204>

わたしの大好きな絵本

ぼんちゃん（おはなしおはなしグーチョキパー）

『おどりトラ』韓国・朝鮮の昔話

絵：鄭スクヒョン 再話：金森 裏作
福音館書店

誘惑とは…『人を迷わせて、悪い道へ誘い込むこと』（広辞苑より）

「これ以上食べてはいけない」「これ以上好きになってはいけない!？」そう思えば思うほど、人は抜け出すことのできない、深〜い沼にハマってしまうのだ。

「おどりトラ」は、お隣韓国の昔話。どのページも大変美しく、その色使いや独得のタッチに、かの国の文化を感じる。特に主人公であるトラたちは一頭一頭が大変個性的で、全編にその魅力が溢れている。

笛の音に誘われて、「踊っちゃいけない、踊っちゃいけない」と必死に抵抗する頭と裏腹に、勝手に踊りだす我が手足。

わかります。その気持ち。とても他人事とは思えません。

繰り返されるリズムカルな言葉も気持ちよく、クスクス笑いが止まらない。

真面目で一生懸命なのに何故か報われない。悲しい人間の性（サガ）と哀愁をトラの姿を借りてユーモアたっぷりに表現された昔話。何度も読み返したくなる中毒性のある絵本だ。皆様にも是非一度、この沼にハマっていただきたい。

